

第33 回 横浜みどりアップ計画市民推進会議 会議録	
日 時	令和2年11月17日（火）午前10時から正午まで
開 催 場 所	日本丸メモリアルパーク研修施設（訓練センター） 第1・2会議室
出 席 者	網代委員、池島委員、池田委員、石原委員、岩本委員、内海副座長、奥井委員、小後摩委員、国吉委員、進士座長、高田委員、高橋委員、村松委員（五十音順）
欠 席 者	池邊委員、川幡委員、望月委員
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 横浜みどりアップ計画 2019年度の事業実績について 2 市民推進会議 2019年度報告書（案）について 3 市民推進会議 2021年度の取組について 4 その他
議 事	<p>事務局： 本日は委員の皆さまにはこのような状況でございますが、万障お繰り合わせの上お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>ただ今から第33回横浜みどりアップ計画市民推進会議を開催させていただきます。</p> <p>まず、本日の会議につきましてご報告申し上げます。本会議ですが、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第5条第2項の規定により半数以上の出席が会議の成立要件となっておりますが、本日、委員定数16名のところ、ウェブでの参加いただいている3名を含めまして、13名の出席ということで会議が成立することをご報告いたします。</p> <p>また、本会議ですが、同要項8条により公開となっており、会議室内に傍聴席、記者席を設けております。また、本日の会議録についても公開とさせていただきます。委員の皆さまには事前にご了承いただきたいと思います。なお、会議録には個々の発言者の氏名を記載させていただきますので併せてご了承ください。さらに、本会議中において写真撮影を行いまして、ホームページおよび広報誌等へ掲載をさせていただくということも併せてご了承ください。</p> <p>次に、お手元に資料を準備しておりますのでご確認いただきたいと思います。会議資料ですが、まず、1枚の次第、それから、資料1、これ、番号を振っておりませんが、カラーで「みどりアップ計画2019年度事業報告書」の概要版ですね。それから、資料2といたしまして、「市民推進会議の2019年度の報告書案」、それから、資料3、「市民推進会議2021年度スケジュール」となっておりまして、併せて座席表も配布していますのでご確認、ご参照いただければと思います。</p> <p>それから、緑色のフラットファイルですけれども、参考資料として、「みどりアップ計画2019－2023」の冊子をとじたものを置いておりますのでご参照いただければと思います。以上ですが、不足の資料はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、議題に入る前に、環境創造局政策調整部長より挨拶させていただきます。</p> <p>事務局： 皆さま、おはようございます。本日は、こういったコロナ禍の厳しい状況の中、朝早くからお集まりをいただきましてありがとうございます。また、ウェブで参加をしていただいている先生方も、本当に皆さま方、ありがとうございます。日頃からの横浜市の環境行政</p>

	<p>にご協力をいただきまして感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>さて、この新型コロナウイルス、最近、第三波ということもございますけれども。いろいろな意味で社会が変わってきたなということは皆さんもそうかもしれませんし、私も非常に実感しているところです。いろいろなニュースが出ておりますが、自粛生活が続く中、例えば、我々が所管をしている樹林地であるとか、公園には平日から多くのご家族等々がお集まりをいただきまして、やはりこういったオープンな空間や緑の重要性というのが、非常に認識されていたのかなと思います。</p> <p>また、農政関係で言いますと、直売所等々がございますが、多くの市民の皆さまが野菜やフルーツをお買い求めに来るということもあり、いろいろな意味で市民の皆さまの生活にも変化をきたしているのではないかと考えています。</p> <p>本市においては、2009年からみどりアップ計画にも取り組んでおり、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を目指し、皆さまのご協力の下、着実に事業を進めてきた次第です。こういった日々の積み重ねが、市民の皆さまが緑を実感できるようないろいろな行動につながっていると思っておりますし、特に今年のようなコロナ禍においては、先ほどのお話にも重なりますけれども、あらためて緑、公園といったものの重要性が再認識をいただけたのかなと思っています。</p> <p>また、本日の会議を開くにあたり、9月、10月の施策ごとの部会においても、多くのご意見を頂戴し、本当にありがとうございました。是非、本日も忌憚のないご意見を積極的にいただきたいと思っておりますし、活発なご議論を踏まえまして、市民の皆さまへの情報提供であるとか、今後のみどりアップ計画の推進に役立てていきたいと思っています。はなはだ簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。是非、皆さまもご健康にご留意されて、日々、お過ごしいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願い致します。</p> <p>事務局：事務局からは以上になります。今後の進行につきましては、進士座長にお願いしたいと思います。進士座長、よろしく願いいたします。</p> <p>進士座長：皆さん、おはようございます。</p> <p>一同： おはようございます。</p> <p>進士座長：座長を引き受けております進士でございます。どうもご無沙汰しております。</p> <p>今日は、みどりアップ計画の現状までのところのご報告が最初にあるそうです。それから、本題であります、市民推進会議の今年度の報告書、それから、来年度の活動ということですので、どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>ご議論いただきましょう。じゃあ、早速ですが、2019年度の事業報告書をご説明いただきます。</p> <p style="text-align: center;">（事務局説明）</p> <p>進士座長：どうもありがとうございました。何かご質問やご意見ございましたら、どうぞ。</p> <p>区別の実績というのは、毎回あったんでしたっけ？ いっぱいありますね、バランス良く。こういう区別の地図で細かく出ているので、平等にちゃんと事業をしているわけ？ 区役所は区長というのがあるんでしょう、確か。</p>
--	--

	<p>事務局：います。</p> <p>進士座長：だから、その人の意向によって違うんですか、これは。みどり部局から直接、各区に配分したりしているんですか。</p> <p>事務局：これは、我々のほうが主体的に行っている事業で、区長の意向とか、要望があれば汲んでいる部分もありますけども。どちらかというと、市民協働の事業が本当に多いものですから、地主さんも含めまして、ご提案とかご要望があった所で実施しているというのが主なのかなと思います。</p> <p>樹林地が少ない、例えば、中区などは、樹林地の保全の事業がなかなか大きなものがないということで、そういった部分はちょっと緑化を頑張ってみようなどの工夫をして、あんまり偏らないように、配慮をしながらやっているつもりでございます。</p> <p>進士座長：ガーデンネックレスのときにも、区にいろいろな事業をやってもらったでしょう。ああいうふうに、だんだん本物になってきたなって。評価しているんですよ。本当、細かいところまで下りてきたなと。とても良かったと思いますけどね。</p> <p>もう一つは、このリーフレットのほうで円グラフ、これは事業費108億円のうちの35億円、みどり税分だけがこうしてあるよね。普通の市民はこうやって見ると、農を感じるところ、35分の1じゃないかって、大体おっしゃるんですよ。ただ、そうじゃなくて、大きな総事業費のほうで農政は結構手厚くあるということでしょうか？</p> <p>事務局：ありがとうございます。先生のおっしゃるように、ここはみどり税の35億円の内訳です。事業費全体、みどり税以外にもいろいろな財源があって、全体では、先ほどの説明の108億円ということになります。その内訳は柱1が81億円、農については5億6000万円ですね。緑化についてが20億円ちょっとというところですので、みどり税だけで見てしまうと、少なく見えますけれども、事業費としてはこういう形であると。</p> <p>あと、先生がおっしゃったように、みどりアップの取組ということで身近に市民の方が農を感じる場をつくる取組をやっていますが、これ以外にも生産振興ですとか、そういったところについては、一般会計の事業で、この外でやっていますので、全体で農についての取組になるということです。</p> <p>進士座長：ですから、最初にちょっと言ったの、これ、農があまりにも小さく見えてしまうので。今の基盤なんかも本当、昔からやってきたわけだけど。広報のときに、これはみどり税のことが中心になるわけ、市民推進会議はね。みどり税という特別の税金をいただいているので、市民の理解を得たいということもあって、こういうことをやっているんですね。</p> <p>それから、直接、市民の感覚が行政に反映するというようなこともあって、この推進会議が持たれています。</p> <p>そういうことだから、みどり税に注目しているんだけど、推進会議としてはね。ただ、一般市民の感覚は、今言ったように、こうやって円グラフ見ると、やっぱり35分の1に見えちゃうでしょう。だから、ここは難しいところです。できるだけ、本当はみどり税、内の円で、外にもうちょっと大きい円があって、その総体としての市の事業というのはどう進んでいるかというのを合わせるとか、なんか一工夫、来年度からは考えたほうがいいかもしれないね。</p>
--	--

	<p>事務局：はい。ありがとうございます。</p> <p>進士座長：みんな、それぞれ違うんですよ、森を大事にしている人と、街の緑を大事にする人。それ、違うもんだからね。 何かご意見ございませんか。どうぞ。</p> <p>網代委員：2点ほど、意見を申し上げさせていただきたいと思います。 まず、今、進士座長からお話ありましたが、各区の取組をこのように詳しく取り上げていただいているということで、この報告書自体は素晴らしいと思うんです。ただ、この概要版ということになって、これを回覧で皆さんに見ていただくと。または、今回は、回覧は無理なので、自治会・町内会長には配ってくださいということになっていますので、この各区における取組がなかなか市民の皆さんに伝わらないのではないかなということを感じます。せっきくのこの活動を、事業を展開していることを、例えば、横浜市の情報誌を通じてとか、その各区版に載せていただくなど工夫をして、より市民の皆さん、区民の皆さんに知っていただく努力をお願いしたいというのが1点です。 それから、もう一つは、この計画の中でより市民の皆さんに緑を感じていただいたり、農体験をしていただいたりということがとても重要なのかと思うんですけれども。そういうことが先ほどのご説明ですと、横浜市の環境創造局におかれて行われる事業についてということでございましたが、もっと、もっと各区の持つておられる資源を、例えば、森でありますとか、農地でありますとか、花壇等、そういうことを生かした、区民の方々が直にふれて、楽しんで、癒されて、そして、体験をしていただく機会を各区にもお願いするというのも、もっとやっていただけたらいいのかなと。私は地元ではそういうことを訴えておりますので是非、ご指導願いたいなど。</p> <p>特に農体験などは、子どもさんなどにとっては、野菜はスーパーにあるものということになるかと思うんですが、そうではないということをしつかり農体験などを通じて知っていただくと、そういうことを今後、お願いしたいと思います。</p> <p>進士座長：いかがでしょうか。特にご発言。どうぞ。</p> <p>内海副座長：私もこのみどりアップ計画の概要版が配られたときに、自分たちの身近なところでどうことがやられているのかが、なかなか、この概要版だけでは伝わりにくいので、例えば、これ、折り込みになっていますから、区ごとにこの地図に対応した簡単なものを裏表ぐらいいに、それはコピーでもいいかもしれないんですが、挟んで配るようなことができるといいなと、私もこれを見たときに感じたところです。別立てもなかなか難しいので、そういうことができないのかなと思いました。 やっぱり市全体でどうのこうのというのは、なかなか市民の皆さんはあまり意識しないので、それを伝えながらも、自分の住んでいる区でどんな展開がされているかというのは、非常に大事かなと思いました。</p> <p>進士座長：ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。 じゃあ、高田委員どうぞ。</p> <p>高田委員：ありがとうございます。高田です。私も今まで身近なところがなかなか分からないのが、この報告書でグッと身近に感じられて、皆さんおっしゃっていますとおり、各区の版がよくできていて、これ</p>
--	---

はとてもいい効果だと思いました。

ですので、今おっしゃっていましたが、各区でこれと同じようなものを作っていただけたらいいなと思いました。そうすると、どこで、どんなことが行われているかというのがずっと身近に思えると思います。

さらに、データがありましたら、この年代ごとにどのように、それぞれの結果が推移しているのかということも加えていただけると、今、良くなってきているのか、それとも、もう少しここら辺が足りないのかなどを身近に感じられるのではないかと思います。是非、これ、拡大いただけたらと思っております。

進士座長：どうもありがとうございました。ほかにもございますか。

これは報告にとどめるということですので、今言ったような、いろいろご意見ありましたので、来年度以降でも参考にさせていただいたと思います。

本当に私は素直に区別、つまり、地域にちゃんと出ていっているというのを区民の皆さんに理解してもらう。それから、やっぱり各区が少し特色を出すというのも、これからとても大事なので、やっぱり区長のリーダーシップでやる。例えば、子どもさんが多い所は、もうちょっと子ども参加型を思いっきりやるとか、企業が集まっているような所は、企業がもう少し目立つとか。

私の主張は、「多様性からのランドスケープ論」というのをずっと言っているんですが、やっぱり多様性って大事なので、例えば、今の図で見ると、各区、非常に頑張っているというのはよく分かるんだけど。一応、これ、緑系でやっているから、森も、農も、それから、街の緑も、寒色系で色をやっているの、すごく整然としているの。いいんですよ。いいんだけど、今度は全区を見ると、これがもうちょっと花や緑のほうは少し暖色系にする。農地はその中間色でやると、区の特徴が出ますと、パラパラッとめくって。まちづくりのほう、非常に活発な所と、保全型がすごい区と。

今、アフターコロナをいわれていると、もう住環境が大事だということになってきたですね。今までは、ベッドタウンってよく言うけどね。うちは泊まるだけだという意識があった時代もありましたが、今や、やっぱりオープンスペースが身近にあるかとか、豊かな自然が大事だとか、そういうふうのリモートライフだけやっていると、やっぱり地元にも男性も関心を持つようになりますから、そうすると、住み替えとか、新しくやるということもあり得るかもしれない。環境の良さが市民の選択性を上げることにもなる。

だから、私は、横浜はやっぱり関内を中心とした中心部のイメージが強いんだけど、横浜の本当のポテンシャルは郊外部にあると思うんですよ。圧倒的に豊かな空間なので、しかも、それが個性豊かなんだよね。歴史的にも、そこに鶴見川みたいな大きいのがあったという。いろいろあるので、むしろ地になるといって、グリーンスペース、オープンスペースのその豊かさと、そのバラエティに富んだ、昔のふるさと村みたいなのがありましたね、寺家とか、舞岡みたいなね。そういう場所とか、そういう所をむしろ選ぶ、若い人はね。今までは東京に通うという、時間・距離で考えていたんだけど、居住地がとても大事なんだとなって、それはまさにみどりアップ計画の基本思想ですから。

それから、水系のことも、水を加えた最初なんだよね、緑のマスタープランにね。そういう意味では水の系統も徐々にこれから増えていくでしょう。ですから、徐々に本物の環境先進都市になりつつあるなと思って、私は非常に期待しているんですね。

だから、そういうことを少し後押しするためにも、むしろカラフルに。で、非常に都心部は明るい色がいっぱいあるし、郊外が

	<p>豊かな自然がある所はそれこそ生物多様性そのものの拠点になるというふうにね。すると、横浜全体が大横浜ですから、それが非常に多様性に富んだ地域性を持っていて、横浜のトータルなポテンシャルを上げることになるだろう。それから、いろいろな市民が自分のライフスタイルに合わせて選択できるというような話にまでなるかもしれないという期待もあるものですから、ちょっと余分なことを参考のために。別にそうしてくださらなくてもいいんだけど。これはこれで報告書としてはとてもよくできています。</p> <p>それじゃあ、今回はこのテーマであります、市民推進会議の2019年度の報告書についてご説明をいただきます。先ほどのご説明のように、それぞれの部会でいろいろ詰めていただいておりますから、多分、そんなに特別のことのご意見はないかもしれませんが、レポートを見ていただきながら、これが今日の最終ですから、ご発言をいただきたいと思います。それじゃあ、説明をよろしく。</p> <p>(事務局説明)</p> <p>進士座長：ご説明ありがとうございました。それでは、皆さんからご発言をいただきます。どうぞ、どなたからでも結構ですので、いかがでしょう。どうぞ。</p> <p>高橋委員：高橋です。今頃、気が付いて申し訳ないのですが、44ページ、「効果的な広報の展開」というところの実績報告の中に、「メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信」という目標があって、実績が書いてあります。このメールマガジンというのは毎月で、Twitterの発信というのは随時で行われていると理解しています。</p> <p>「横浜みどりアップ計画メールマガジン」のように正式名称を入れる。Twitterのほうも、環境創造局の「横浜環境情報」というTwitter名でみどりアップ計画の関連情報を随時、発信しています。もし、報告書を読まれた市民がいれば、正式名称ですぐに見たり、WEB検索できるのではないかなと思いました。</p> <p>進士座長：事務局、なんかお話ありますか。</p> <p>事務局：ご指摘ありがとうございます。ご指摘のとおりですので、その辺り、修正を後ほどさせていただければと思います。</p> <p>進士座長：ほかはございませんか、いかがでしょう。どうぞ、網代さん。</p> <p>網代委員：今、ご説明いただいた資料の59ページから広報誌を掲載いただいております。63ページもございます。非常に素晴らしい活動をしていただいております、または、体験していただいたこのお子さん方の素晴らしい笑顔を掲載いただいて、本当に素晴らしい、大変なことをやっただいていて感心いたしました。広報部会の皆さまに御礼申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>進士座長：感謝の言葉です。高田部会長、せっかくだから、一言ございますか。</p> <p>高田委員：ありがとうございます。この『Action』については、やはり今まで、私のコメントとか、先生にも書いていただいたんですけども、まずは知っていただくというところから、今年は是非、アクションに、このコロナということは、名前を付けた当時はもう想像もしていなかったんですけども、自分たちで行動にまで移せるところの</p>
--	--

	<p>広報をしていこうということで、身近な周りに緑があることの重要性というのがますます大事になってきましたので、広報というものを新しい形で全てつなげていきたいなと思っております。今後とも、またさらにどうしたらいいかということを次々、皆さんで活発に議論しながら推し進めていきたいと思っております。</p> <p>進士座長：どうもありがとうございました。每期、每期、ユニークな便りを配っていただいて、評判いいですね。やっぱり緑はこうやって人が登場しないと駄目ですね。自然だけを出しても駄目ですね。人間と自然とは密接不可分ですから、是非、これからも頑張ってください。ほかの委員の方、いかがでしょうか。どうぞ。村松さん。</p> <p>村松委員：村松です。いろいろな意見を言いまして、取り入れていただいてありがとうございました。</p> <p>質問ですが、2019年度の報告書ということで、来年度もまた、出るのでしょうか。毎年、出るのですか。</p> <p>進士座長：毎年ですよ。</p> <p>村松委員：そうですか。でしたら、ちょっと。</p> <p>進士座長：今、2020年の最後になって何だっていう。</p> <p>村松委員：いえ、いえ、それはそういうものですけど。</p> <p>進士座長：みんな、コロナのせいですから。</p> <p>村松委員：そうですね。今年は変則的だったのだとは思いますが、評価ということで、私は農部会なのですが、農部会でも、施策の評価ということで話し合いました。そのときに、この詳しい事業報告書ですか、これがまだできてなくて、非常にざっくりした形の事業報告で、なんか前にも聞いたような、同じような説明と言っちゃ失礼ですけども、そういった説明でした。それで評価は、皆さん、ベテランですから、それなりに評価をみんなして、提案もしたんですけども、できたら、もっと詳しい、どこに何をどのぐらいやって、どのぐらいお金を使ってという、詳しい報告があってから評価をするのが本当ではないかなと思うのですね。</p> <p>例えば、私の関心のある直売所も、部会のときにも言いましたが、「直売所の支援、11か所」とか書いてあるのですね。その報告だけで、直売所と言っても大きいものから小さいものまでたくさんあるし、どこにどういう支援をして、どのぐらいお金を使って、どうやっていったのかということが分からなければ、「直売所の支援、11か所」が良かったのか、悪かったのか、不足だったのか、十分なのか分かりません。できたら、この詳しい事業報告書を見せていただいてから評価をしたいと思いますので、来年度、できたらよろしく願いいたします。</p> <p>進士座長：私が答えるのも変なんだけどね。同時並行にやっているんですね。この分厚いほうをさっき、説明あったでしょう。みどりアップ全体としての事業報告があるでしょう。これがこれと並行しているんですね。これが出てから、次やるんじゃないんですね。ちょっと事務局、説明してもらえますか。</p> <p>事務局：すみません。ご意見ありがとうございます。</p> <p>今、進士座長からお話がありましたけど、事業報告書、昨年度の</p>
--	--

	<p>ものを取りまとめる作業は今年度行っているというところで、スケジュールとして、これをまとめつつ、この取組に評価・提案をいただきたいということで年間スケジュールを組んでおります。</p> <p>部会では、この中の取組、ここまでまとまっておりませんが、より伝えやすい形でプレゼンテーションをしていたつもりなんですけど、なかなかやはり伝わりきれなかったという部分も今、改めて理解をいたしましたので、来年も並行して作業ということは変わらないんですけれども、できるだけ伝わるような形でできるように工夫していきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>進士座長：どうもありがとうございます。少し事務局の苦勞もご理解いただいて、よろしく。ただ、さっきの農園のこととかあったでしょう、今、お話にね。</p> <p>村松委員：はい。</p> <p>進士座長：私、さっき、中区の所を区別でちょっとチェックしていたのね。そうすると、農園の開設なんか無理だよね、中区でやるのはね。</p> <p>事務局：そうですね。</p> <p>進士座長：地価が高い所ですから。 でも、この辺、MM21の所でなんか朝市みたいなのやっているんじゃないかなかったですか？</p> <p>事務局：そうです。</p> <p>進士座長：だから、あれは農園の開設という地図なのではないんだけど、農園はないんだけど、そういう「ハマの野菜」というのを市民に広く分かってもらおうと言って、そういう朝市だか、日曜市だか知らんけど、そういうのをやっているんですよ。</p> <p>事務局：はい。</p> <p>進士座長：だから、地図には空白になっちゃうんだな、中区なんかは、農の話になるとね。だけど、実際はやっているわけだよね。</p> <p>事務局：実際はやっています。</p> <p>進士座長：だから、「農園」というタイトルにすると、それはしょうがないんだけど、農とのふれあいはやっぱり街場でも努力しているんですよ、事務局は、見えないところで。だから、やったものはできるだけ挙げられるような仕掛けでマッピングしたりすると、分かってもらえるかもしれないよね。</p> <p>それから、今、お話のところで言うと、これが私もずっと何年かお付き合いしてきたので思うんだけど。今、村松さんが言われたとおりで、これは2019年度というので出るんですよ。今年、2020年度でしょう。下手すると、2021年度に出るかもしれないという。もう今年度やるだろうけど、1年遅れでね。ずっと1年遅れなんですよ、こういうものは。ところが、何とか白書とかというのみんな、そうになっているはずなんですけど、市民から言うと、なんで去年のって思っちゃうんですよ。だけど、去年やったことを全部、チェックして、皆さんの新しい提案も含めて、そして、2021年度に反映するようにやっているわけですよ、行政はね。</p> <p>ただ、一見、2019年度報告書なんですよ。でも、発行日は2020</p>
--	---

年なんだよね。だから、2019年度報告書だけ、「横浜みどりアップ計画評価・提案2020」にすれば、ちょっとダブルスタンダードでややこしいんだけど。ちょっとこれが今のお話と同じようにずれて感じるんですよね。出るタイミングがちょっとずつずれるものだからね。行政の方は普通なんですよ、これが。それぞれ年度というのは次の年の3月までありますし、いろいろあれなんですけど。ちょっとそういういろいろな事情もあるということだけ、村松さんご理解ください。よろしく。

ほかの方、いかがでしょうか。高田さん、さっき、褒められたご挨拶はいただいたけど、報告書そのものはいいいんですか。ほかの方で、商工会の方とか、ご発言ございませんか。

石原委員：横浜商工会議所の石原と申します。

進士座長：はい、よろしく。

石原委員：よろしくお願いします。昨年、当推進会議として委員として就任させていただいたんですけれども、会議への出席が今回、初めてということになりまして、しかも、ウェブでの出席ということになりまして、直接、皆さんにご挨拶もできておりませんで、大変申し訳ありません。

報告書を拝見させていただきまして、私としては個々の具体的な指摘というよりも、全体的に見た感想を述べさせていただきます。

とても本当に分かりやすくまとめているなという印象を受けております。1 ページ目の1の「はじめに」で、進士座長の非常に親しみやすいメッセージから始まりまして、本文でも写真やグラフだとか表をふんだんに使っていて、私のような者にも分かりやすくまとめているなと思っております。

実はこの会議に臨むにあたりまして、過去の会議録をちょっと拝見させていただきましたけれども、これまでの委員の方々、皆さまの年度ごとにこうした報告書の内容や表現方法などについてご指摘だとか、意見交換されていらっしゃいまして、それらを取り入れながら、年度を重ねるごとにより良いものが出来上がってきているような感じがしまして、非常に洗練されたものになっているというのを率直に感じております。皆さま、ありがとうございます。

進士座長：どうもお褒めいただきありがとうございます。横浜商工会議所も感性豊かで結構だと思いますが、頑張ってください。

石原委員：はい。

進士座長：特にございませんか、皆さん。もう部会で十分ご議論いただいているんでしょうが、副座長、なんかありますか。

内海副座長：部会のほうでもやったので、一つ。先ほど、いわゆる2019年度の実績だけの評価という話にどうしてもなるんですけど。

例えば、はまふうどコンシェルジュも、修了した人が400人を超える人数になったということで、私はオール横浜でいろいろと活躍する場について、コメントに個人的な感想を書かせていただいたんですけど。

例えば、もう少し区別にするとか、あるいは、地域の中での地産地消をどこか特定の所で推進するようなことだとか、そろそ

	<p>ろ違うステップにと。はまふうどコンシェルジュもそれだけの人数になると、区別に何人ぐらいいるのかとか、多い区は、それこそ郊外区が多いのか、むしろ、そういう場が少ない都心区とか、都心周辺の所で多いのか、そういうことを考えたいなと思っています。</p> <p>2019年度の実績だけではなくて、少しその施策展開を考える上では、もう少しそうじゃない、今までどれだけのストックができていいのかとか、そういう話も入れ込んで、それで、2019年度は何人卒業したということが出てくると、もう少し評価の、あるいは、やる内容についての提案とかも突っ込んだ議論が少しできるのかなと感じました。</p> <p>進士座長：各部会でいろいろな提案をいただいたりして、それぞれ書いてあると思うんだけど。これで足りないことがあるかしらね。</p> <p>例えば、今のだと34ページにはまふうどコンシェルジュがうんぬんとかありますね。</p> <p>内海副座長：はい。</p> <p>進士座長：つまり、これが各区とか、個別に欲しいということですか。</p> <p>内海副座長：そうですね。そうなるよ。</p> <p>進士座長：そうなるよ、今度、こっちのと重なっちゃうね。</p> <p>内海副座長：そうなんですよ。</p> <p>進士座長：それでも、部会の意見で特別、強調したいことは加えていただいているですよ。ゴシックで書くのは困るよ。普通に意見があるところ、もっと加えていただく分にはいいと思いますよ。</p> <p>内海部会長：はい。一応、書かせていただいているんですけど。</p> <p>進士座長：もうちょっとデータが欲しいと。</p> <p>内海部会長：もう少しデータが、分からないので、具体的な話として展開しにくいというか。</p> <p>例えば、どの区でできるのかとか、そういう話も、もう少しデータがあって、ここの区ではすごく大勢いるよという話になったら、まず、それじゃあ、その区でやってみるというのはできるんじゃないのかという話ができると思ったので。2019年、前年度の実績だけでないものも、場合によると、その累積がどうなっているのかという話とか、それから、例えば、農園付公園も、まだできていない区もあるのかもしれないんですけど。</p> <p>前年度の実績だけで言うと、できた・できないというのは、なかなか内容評価がしにくいということなので、毎年、全体が分かるようにというよりは、今年はそれじゃあ、こういうところにフォーカスをして全体も見えるようなものを少し中に入れ込もうかというような話があると、その中で前年度実績だけを視野に入れた評価にとどまらない話ができるのかなと思いました。</p> <p>進士座長：事務局、なんかお答えありますか。経年的に、本当は、行政は連続しているんですね。</p>
--	--

	<p>内海副座長：そうです。</p> <p>進士座長：地権者との関係なんかで用地買収なんかする場合は、そんなにスツときれいに年度ごとに分かれるわけじゃなくて、交渉は前の年からやっているわけですね。だから、そういうことはたくさん、日常的にはあるんですけど。多分、行政的な整理でこういうことをやっているんだと思うので、今言った、定性的な意見はいけるとは思います。去年やったのも今年はカウントしちゃうなんていうのはちょっと無理だろうからね。</p> <p>どうぞ事務局、なんかいい整理があったらご説明ください。</p> <p>事務局：ご意見ありがとうございます。</p> <p>なかなか農の取組の部分でその表現ができていないのかなというところはあると思います。地域緑のまちづくりとかですと、個別にどういうことをやっているか出てくるところもあるんですけども。今年度、ここまでまとめているんですが、今後どういうまとめ方が市民に伝わるかとか、広がりを持てるような政策展開ができるかというところを詰めて議論をした上で、次、また表現を工夫していければなどと思っております。</p> <p>内海副座長：はい。</p> <p>進士座長：あと、委員のコメントもあるから、そういう、少し年度にピシッとしているんだけど、それは件数とか何回とかという、これ、数値目標化していますから。</p> <p>内海副座長：そうですよね。</p> <p>進士座長：それはやっぱりダブルカウントはまずいですよ。</p> <p>内海副座長：そりゃあそうです。</p> <p>進士座長：だから、統計というのはそういうものなので、ただ、おっしゃる意味も分かるので、委員のコメントとか、それから、今後の課題みたいなのところとかで加えるべきことがあったらどうぞ、それぞれ。部会では一応、ご議論いただいているんだろうけど、事務局で判断していただいて、加えるものは加えられると思います。今日で会議としては終わりですが、そういう作業は別に問題ないだろうと思いますね。いいかしら、事務局としてはね。</p> <p>事務局：はい。今日、まとめの部会ですけども、今日いただいた意見を踏まえて、編集チェック、また、この後にいただきますが、結構でございます。</p> <p>進士座長：そういうことですので、どうぞ。</p> <p>それから、新しくなった市役所、こないだ見学させていただいて、非常に素晴らしいし、周りもきれいなバラがあそこまで並んでいるとは知らなかったんだけど。あれはみどりアップの事業は一切入っていないんだろうと思うんだけど、入っているの、市役所周辺は。</p> <p>事務局：市庁舎の管理経費で。</p> <p>進士座長：管理経費でしょう。</p>
--	---

	<p>事務局：ええ。総務局の事業で。</p> <p>進士座長：そうでしょう。</p> <p>事務局：はい。</p> <p>進士座長：今、気が付いたのは、表紙の一番下の写真、里山ガーデンでしょう。何となく、環境的に森に近いんだよね。里山ガーデンだから。私、今、思ったのは、これは表紙へ二つ並べてもいいなと。もうちょっと都心なら、さっき、中区の話をしたけど、日本大通りでもなんでもいろいろなことやっているじゃない。少しでもみどりアップの費用が入っているのがあったら、都心の緑をやっぱり出しといったほうがいいと思うんだよ。</p> <p>事務局：チューリップとか。</p> <p>進士座長：チューリップぐらいは平凡だけど。いや、要するに、この表紙の写真を並べたときに、都心という雰囲気はないんだよ、こういう里山ガーデンは。だから、やっぱり横浜のイメージは港町で、中区や関内なんかや、MMでもいいんだけど。何だったら、先ほどのようなコンシェルジュというの、もうちょっと周りにビルがあって、そこで野菜を、それでもいいんだ。 ただ、これは非常に論理的にできているんですよ、この表紙は。森と農と緑化になっているんだけど。農の今の写真も捨てがたいの。これ、何とかしてほしい。森もひとつ、何だったら、ボランティア活動かなんかを載せればいいでしょう。写真を6枚にすると、もっとやっていることが伝わるかなって思いついた。</p> <p>内海副座長：なるほど。</p> <p>進士座長：思いつきだけよ。どちらでもいいんですけどね、本当は。でも、せっかくやったものは伝えて。 本当は、みどりアップ計画で市役所周辺もやっていればと思ったんだけどね。市役所のこっち側のリバーサイドの所までは全然関係ないの。</p> <p>事務局：管理経費は、庁舎管理の総務局の予算なんですけど、実際、やっているのは我々、環境創造局が依頼を受けてやらせていただいております。</p> <p>進士座長：でも、みどりアップ計画そのものではあるんだよな、じゃあ。要するに、みどり税が入っていないかもしれないんだけど。これ、全部、みどり税が入っているのだからやらないといけないの。</p> <p>事務局：みどりアップのこの特別会計の中の事業ではなくて、この外の事業になります。</p> <p>進士座長：50万円でも付けときゃよかったね。 高田さん、どうぞ。</p> <p>高田委員：この報告書の意味というのが、やはり政策に基づいてどのように税金が使われて、それがどうであったかという評価も含めた内容になるかと思うんですね。それと同時に、これからどういうふうに関心を持ってこれを推進していくかということが、何をしなければいけないかということが皆さんに伝わるということが重要じゃないかと思うん</p>
--	--

	<p>ですね。そういう見方の作り方、今年きっかけではなくて、次からも、先ほど、どなたかおっしゃっていた中身かなと、私も思っています。</p> <p>一方で、せっかくこの詳しい内容がということをも私も思っていて、前の会議のときにも、これを連動させたらいいんじゃないんですかということも申し上げたんですけど。それを一つずつやるというのも難しいかもしれないんですけども。</p> <p>例えば、引用ではないんですけども、何という表現をしたらいいかわからないんですけども。この報告書がありますということをごどこかに載せるということをしてほしいんじゃないかなと。</p> <p>もったないと思うんですね、こんなにいいものができているのに。市民推進会議の評価・提案には、報告書のことについて入っていないような気がするのです。今はホームページからとか、多分、ダウンロードできたり、見ることができると思いましたので。</p>
進士座長：	<p>ありがとうございました。そのとおりですね。</p> <p>こっちの報告書というか、全ての事業が入っている、こういうのが別途あって、そこに詳細にあるんだということをごこれにもちょっとふれたらというご提案ですね。広報部会長、なかなかいいですよ。</p> <p>ちょっと工夫してください。最初の、なんかもう「はじめに」とか、いろいろ書いてあるけど、そんなところを追加する手もあるし、いろいろなやり方があるだろうと思います。ちょっと工夫してくださいね。</p> <p>それから、そういうSNSであれ、いろいろな、先ほどご提案ありましたが、そういうことも含めて、さっき、高田さんがいくつか言っておられたでしょう。そういうのが今は普通な時代なので、どっか、裏表紙の中でもいいし、これを見たら、次、これへ行きたいという人が必ずいるので、そこへのサービスをしたらどうでしょうかね。</p> <p>それじゃあ、大体よろしいですかね。</p> <p>じゃあ、来年度の事業計画、本委員会の。これに議題を進めたいと思います。それじゃあ、事務局、よろしく。</p> <p style="text-align: center;">（事務局説明）</p>
進士座長：	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>来年度の話ですが、どうぞ、ご意見がございましたら。いかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>大体、このようなスケジュールでいくということです。最近は適当に変わりますから、パンデミックがきたらえらいことになるでしょう。</p> <p>基本的にはご了承いただいたというような感じですが、Zoomの方、高田さん、よろしいですか。商工会議所もよろしいですか。よろしいですか。</p> <p>それじゃあ、基本的にはそういう方向でどうぞ、しっかり、よろしくをお願いしたいと思います。</p> <p>以上で終わりますが、理事がご挨拶をいただくそうですので、どうぞよろしく。</p>
事務局：	<p>それでは、今日は本当に熱心なご議論とたくさんのご意見をいただきまして本当にありがとうございました。本当にこの市民推進会議の皆さまに支えられて、みどりアップはこの10年やってこられたかなと、あらためて感じたところです。特に、市民の方にどのようにこの成果を伝えるかという部分では、この計画を始めたときから、</p>

	<p>なかなか苦労を重ねて、いろいろ考えてやってきたんですが、本日、またいろいろな素晴らしいご意見もいただきましたので、取り入れられるものは本当に取り入れて、少しでも市民の方にこの成果を発信していけたらとあらためて思いました。今回、反映できるものと、この評価・提案もまた年を重ねてまいりますので、その中で反映できるものもあろうかと思えます。</p> <p>また、途中でいろいろなご議論の材料というか、データがもう少しあったほうが良いというようなご意見もあったかと思えます。すぐ展開して、全部、用意するというのはなかなか、ちょっと難しいかもしれませんが、特に委員の方々のご関心のあるような部分については、我々もそういう議論に沿えるようなデータを極力そろえていきたいと思えます。部会の中で熱心なご議論ができるように、事務局もしっかりやっていきたいと思えます。</p> <p>今回、コロナウイルスの影響がある中で、皆さんにご足労いただいたり、リモートで参加していただきありがとうございます。今回のコロナ禍の中では緑や公園、花などは、多くの方に、あらためてその価値を確認していただいたのかなとか、多くの期待もあるのかなというのを強く感じたところです。</p> <p>引き続き、そういった市民の方の思いに寄り添うようなみどりアップの推進に努めていきたいと思えます。本日はどうもありがとうございました。またよろしく願いを申します。</p> <p>進士座長：じゃあ、皆さん、ありがとうございました。これでこの会議は閉じたいと思えます。くれぐれもお体を大事に、かからないように気を付けていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。事務局もご苦労さまでした。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>次第</p> <p>資料 1 横浜みどりアップ計画[2019-2023] 2019年度事業報告書（本編・概要版）</p> <p>資料 2 市民推進会議 2019年度報告書（案）</p> <p>資料 3 市民推進会議 2021年度スケジュール（案）</p>